

眞山
女画葉姫文庫

目録
上じゆめの日本 如いゆみの漢時
清女當坐の事 女教訓平生綱
古代場景画抄 業本松行の方
蓬莱山乃圖
雨乞小祈乃画 和琴響古口傳
七夕乃奇そ
定家ノ雪乃并 男女相性の事
千六哥仙
賀春圖式
十二支の年画八 十二月和年裏人
唐人畫の事 小窓山はの圖
女画葉書畫 御墨黑病傳法
女手習本
女教訓平生繪 古事の画抄
秋功善乃事



三月二日とよ巳曲水

よりひ一回の成玉乃

と紀周公因定を治

陽小あて天下の士を

集く始て曲み乃

宴と行る

を裏桜の

御すく酒

盆と水桶

うらでま

盆の水桶

布しげりに

花の水桶

花の水桶



詩賊とつねて
け酒と候秋と
下支絆と
海せ守方と
せんむらづぶ
れもとせわの
裏とさかとふ
りつすくはの
いのとあいと
魏ちほ二日と用ひく己の日と
用ひざるさりやかのひととの日と
抜とすきよ己のすとひまう



よりひ一回の成玉乃
と紀周公因定を治
陽小あて天下の士を
集く始て曲み乃
宴と行る
を裏桜の
御すく酒
盆と水桶
うらでま
盆の水桶
花の水桶
花の水桶

清妙細言

清女、肥後ちえ元朝
女とわろ年の冬をあ
ふみけり小帝堂

圖小出清わりて
香爐家めあひ
くらべに小帝堂

のふと群

御小作

父金も

なり一ふ

清か納美

うらふ

イハシと

立く清簾と

卷揚一の帝

さかと春感

うらうとあり



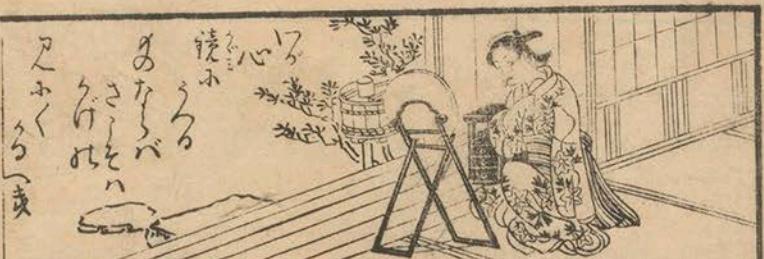




小町の事
 宽永三年小侍勢大神
 初使を立され一時毛雨
 あまを
 トヨタケ
 文津風
 咬る人
 おそれやえ雲
 一田乃うけ
 さん
 帮
 空でくさりげあせ
 初使役
 とく



小町の事
 宽永三年小侍勢大神
 初使を立され一時毛雨
 あまを
 トヨタケ
 文津風
 咬る人
 おそれやえ雲
 一田乃うけ
 さん
 帮
 空でくさりげあせ
 初使役
 とく



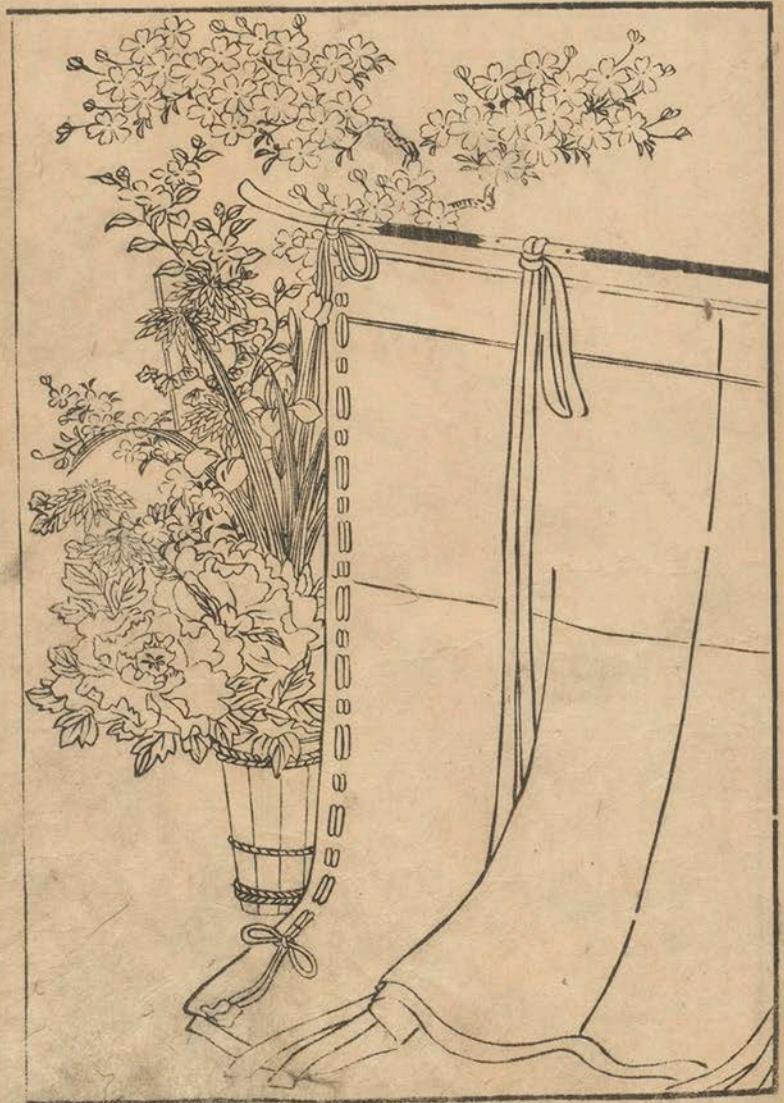
茎男をひり人れひまめ
 やまとしてじとーのめでゆく
 徒小ねもんたりなきハくわ
 細みふりめくれふなきせざ
 おしの中ふあまそありう
 たりるくる人げ壁へぬそん
 あんぞれとそえほんとす女
 えじて

むぎやのなみ
 ゆやまと
 ほまもことまつり
 ましもよも
 もも



帝ゑいがんあつてほらき一
 かさみ幽彦小給くそしらう
 のち時くらして清露毫清
 露から林ど
 まちのやアタリ
 あひめまこ
 かくさき
 清もも
 かくさき夏ふ
 きり

大江の姫
 帝考喜院こういん小おとへよって大
 江の玉側たまわきがむとめとおもして多
 ひとと車くるまとかくー魁さきにて
 欲ほと竹たけしをきをうる
 うくまを



大中は父子
祭主神祇大臣四位下大中
頼基其岩桂宣官又不固一文
利口子
身を
あらば急げづくもほに
君がいひハ子無宣も親王行
賀もあれど又あらへ
うふれ基桂宣おひりてつ
笑ひるど御言うへとかく
まくせひす。ふ歳すをきむ
松もよしのひくられて方代
今んす時村基西とそとたは
松とれて然宣さんぐふら本
つらもて云ぬいふくろいもかか
同がゑおどりては後太子の仰
候かひうる目をだらくはさん
すこすあらり

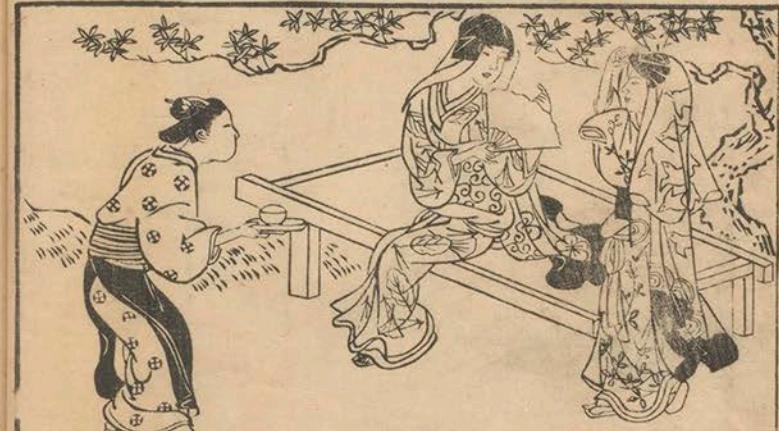


女風俗帳時

一 热く男女小からぬものたゞみどりと人の
朝服俗をみとつり社古和圓ハ諸人の衣服も之と
神代の本とそろへて小衣御天皇十四年小衣服の
裁縫はすりもねれ古大令十九年小男紋女擇私
をと深文とみやうれ之を身を身を壬午から同
わらわてわ年の時銀羽の袖下長く男ナナ十あ
まきさうて九袖か一女子、袖下つもつざも十九
枚袖まで奉かて古木の桜と和がす秋と風俗と
秋袖を休氣小まて身づく姿もとぞじらや今け
をに田舎をうちの娘もおの風と咲てと余風俗格好
ありぬ荒もつきと詠一桜枝と折とみやうれ不整
本名丁よおの達とあらわの姿をうしはづの彼
との一草に後じやふれと脚付ふねの子行脚
歩行すり小笠すりは燒拂士も壁足袋もきと若
圓扇のうわきまかげもあはるとぞむとぞ新

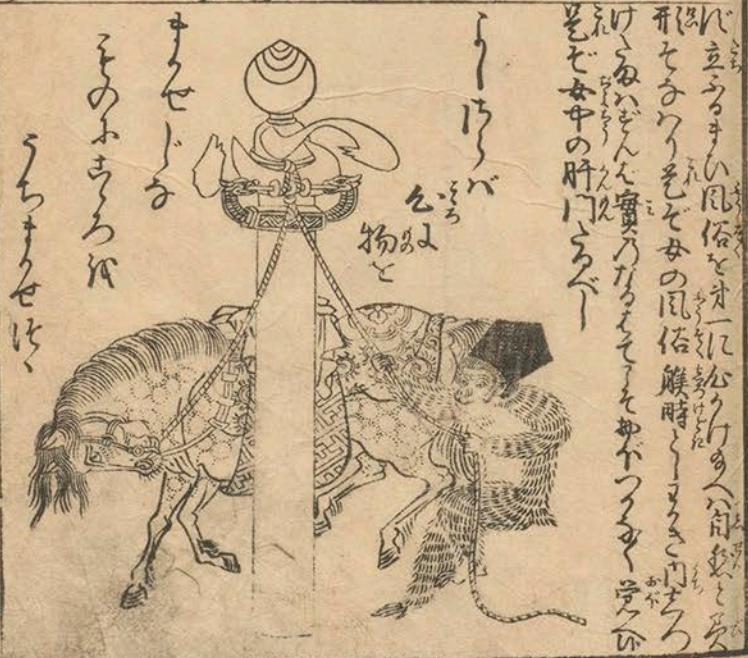
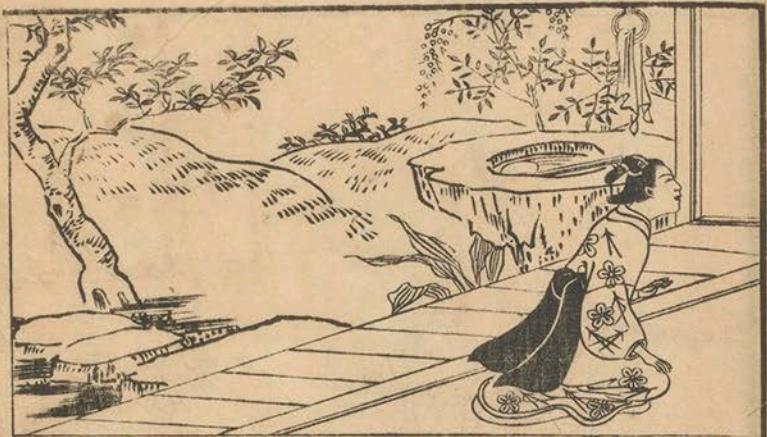


かりてうわきまかげ風俗と見でねりふと見てくと
もととお着は役者外紋下ばんと舞妓衣裳の圓や
ありゆゑあどなむとておゆえどす念をうつてう
まきそよぎあきやキハ被すうりそりうにうら
うらて彰本ホーランがさり舞妓の人の中でねり
是みやうの風俗ハ小らめに妻女の風俗ハいふ
べくべく衣れひ上代風のゆうに今の日と物が變
うらゆうにアユレも被すうりうに車にうれじ
今づくの計ひむかへん袖も事乃おむすび欄と
移わぬ車籠の夫婦女くるるる代てとへまつて人
ゆりぞうと色附りてと女のお風俗と一上不の本
まこと御婆も一計どんりふあらげは母のうまう
座狂すれうり人れあはまうけよとまほるるる
本城の風といひ毛女のぞんざいりれ秋とよる
あうにとまき風俗うれいとせれに本中の



お自慢トモテもとえきと一あらわめのままで半井をす
すにアタマで却ろかくらへかうがまめふありのゆけ
うるいとあらじあ行振カタハラシもひそむろひてぐれす
ひのきまもしおとてをもすうびりもくかく
ひどりもぐくあめのまくもそとびげられはひ
とくとくの人のありくまくとくほりとく
とくともわくゆきやうふくたもくとくほりと
くひきよ下襟付シモヅブへり高くるまくろふくえで
まろースくろきよてえねりこすであゆるねぎ
のまくろ襟シモヅブ乃まくろのまくらう首裏衣シモヅブとまく
いびくねてえぐる一むくより袖襷シモヅブとつひとそ
そもとにしてたよんき風カキ風の尾テとちへてみくねめ
なりかくぶくね下襟の歯シモヅブをみまきて付うかどすく袖
はやくれにくものせとくら付る後アヒのまくらと
よくねくらてそめうふうきくとけうは袖
わく少付も口付カバフうけひくまくとけうは袖

お自慢トモテもとえきと一あらわめのままで半井をす
すにアタマで却ろかくらへかうがまめふありのゆけ
うるいとあらじあ行振カタハラシもひそむろひてぐれす
ひのきまもしおとてをもすうびりもくかく
ひどりもぐくあめのまくもそとびげられはひ
とくとくの人のありくまくとくほりとく
とくともわくゆきやうふくたもくとくほりと
くひきよ下襟付シモヅブへり高くるまくろふくえで
まろースくろきよてえねりこすであゆるねぎ
のまくろ襟シモヅブ乃まくろのまくらう首裏衣シモヅブとまく
いびくねてえぐる一むくより袖襷シモヅブとつひとそ
そもとにしてたよんき風カキ風の尾テとちへてみくねめ
なりかくぶくね下襟の歯シモヅブをみまきて付うかどすく袖
はやくれにくものせとくら付る後アヒのまくらと
よくねくらてそめうふうきくとけうは袖
わく少付も口付カバフうけひくまくとけうは袖



うてるいとほじえとをうさんさせておよひ
 とくめふちうぐとつやひのけとあくら
 本うきなどそくぐひのあせうがをひくに
 うやまうそ人の日よりうれしなま人のす
 そやるゆかうせうがをうれさわるとねを
 こそんじみ内方これひごうとのいはなれ
 もかどくまうれりのせうがとへんす
 きのまけらむ文臣がり猪くばはざりひ乃
 すけふもなりはゆきせん人あわきこう
 けはくとくうれ名のけともううやせんぬはそ
 よくのうくわども公けお一に立ちしてうにし
 おね所縁りうらかどふれしまつするを立不
 い名付スハ出合男の方の身だと見てゆりや
 ゆりゆりくちうくべ女中ひまじ表とけねゆうふ
 まく深く公けお一せふ三ナ一相おある
 天性の身とひふ稀セ只と付う者ゆくうき

さとみあすめひよまの里

里海士人磨像

みえいもく男下の里の海士の

兼房夏小男下の里の海士の

舊跡へ阿波の

名所福壽ふあく

はあへ里海士の

人磨乃あと

うり磨像うか

うき磨像うか

夏小男下乃

ちくろとよの

久のの

あまぎうの

す仙ふあいき

なでしのば

國の



雲小郎
天下旱魃えんばく二月にがつの
不天ふてん旱魃えんばく二月にがつの
わいざわいざ雨あめをさむれしよ下しよ
万民まんみん皆みなひまぐるひまぐるも
とれ初定はつていして小姓こせ小町こまちを
使つかて百姓ひやくのととあ傳言つれんがたは
小町こまち神じん御ご乃の地じののままりりそ
ふとつや日のととあらべては
そとそとのととあらあらが下しよと
と御まき一いききとと御まき時とき小男こやうとう音
三枝さんしの森もり雨あめりり一いくくべ君きみ長なが
とりとり小世こぜ小持こもちて下しよくくびびス穀こ
空そら傍そばかかて民安全みんぜんふくく
ううとありあははとと青あお空そら天地てんじ
さもさもさも瞿くわ神じんもええせせ
ひとへこまこまううべべ





男本女もとてあはれ
まろー子二入わるがとふ
だいんとてぞうどあは
れ
お小
こせをなほ人ひと全く
くらの室とよーかね
くらのまほんぜんとてそと
男本女本始ばいほじ組
子二人きみ人ひとくらの金
もつまでほんせんとてそと
男本女本始ばいほじ組
子二人きみ人ひとくらの金
もつまでほんせんとてそと
らくやまくともあられとあら
もんじゆのほとじゆと
男本女まことか女まぞえ
なればすまかげりつひま
とありうかとわほくて
うちふ
あひそめとものとまもり
りせきとほほじとまがさとほ
吉始ハ吉始はひまきと金始
とリ小だがーとひそめとそ
あすもつとはまくらの事に
いふーのうき神のじまひと
かりすまかくまきとこのき
男本女本まよしめきと金
のまくらはまくらの事に
とうひすまくらでたまを金か
ぐーとくくおまんわりまく
あくとくふらもの中から
なでとくをとぞうをとくの
男火女火大さふまくわーあれ
くもまくしもまくとくまくわー
すとくざらとめだしてまくわー^{とく}
いふなまびこひまくとへや
ほてきねわみわまくとへや

和泉式
わら時能野す
ましろふさりひ

雲乃
月のさより
なまむて月の
さうとなるをあき
ととと
うちすくふ
とくももうね
すうる神なれを

月のさより
うき
しげさせ
うき
うりこき
二



男火女木本江多子久
人今木多九井平一
神多川村江戸子久
多川口山田一
木口多川山田一
あひそー山田ふくしま
あきふらそまち神谷多
てすうなみのまゆ
男火女木子不今火人
さきふらそまち神谷多
てすうなみのまゆ

男火女木本江多子久
人今木多九井平一
神多川村江戸子久
多川口山田一
木口多川山田一
あひそー山田ふくしま
あきふらそまち神谷多
てすうなみのまゆ
男火女木本江多子久
人今木多九井平一
神多川村江戸子久
多川口山田一
木口多川山田一
あひそー山田ふくしま
あきふらそまち神谷多
てすうなみのまゆ
男火女木本江多子久
人今木多九井平一
神多川村江戸子久
多川口山田一
木口多川山田一
あひそー山田ふくしま
あきふらそまち神谷多
てすうなみのまゆ

福満留梅本木伊良
萬葉留梅本木伊良
面種勝毛包名房さ
貴改赤芳吉團翁
石總秋雲松山初
行林之玄文主秋雲
株馬之玄文主秋雲
在の字姓金姓のま
あ姓乃余一
本姓の余一
金姓の余一
石總秋雲松山初
行林之玄文主秋雲
株馬之玄文主秋雲
在の字姓金姓のま
あ姓乃余一
本姓の余一
金姓の余一

男火女木本江多子久
人今木多九井平一
神多川村江戸子久
多川口山田一
木口多川山田一
あひそー山田ふくしま
あきふらそまち神谷多
てすうなみのまゆ

男火女木本江多子久
人今木多九井平一
神多川村江戸子久
多川口山田一
木口多川山田一
あひそー山田ふくしま
あきふらそまち神谷多
てすうなみのまゆ

右字姓本より
火姓の女多
右字姓本より
火姓の女多
安西四郎由
吉姓乃余一
民忠通重
本姓の余一
左字姓本より
火姓の女多
右字姓本より
火姓の女多
山姓の山姓
右字姓本より
火姓の女多
金姓の余一
火姓の女多
左字姓本より
火姓の女多
山姓の山姓
右字姓本より
火姓の女多
金姓の余一
火姓の女多
左字姓本より
火姓の女多
山姓の山姓



十二度のと

男去女水をふらまひ

うどもんかすやどちが
とすゆかまうせほひ

ねもなう
じごとくうべーすか

うちうかく本のとま
づぎふおなはれのた

うじうかくのわまき
れども後姿まみけ

男女女本まくめり
づき下りあまきの

うじうかくのわまき
れども後姿まみけ

つらとまくそんわくあく中れ
じどもを神めぐまき

みまくそん
みまくそん

男去女火大おほよみ火く
さりかむじらるものまき

みまくそん
みまくそん

男金女金まくまくへ
ほりまよ全一人すいとく
どとんまくまくへあまく

みまくそん
みまくそん

入だーすか
づふせんまくまくのやか
さととまくまくあまく

みまくそん
みまくそん

男金女本まくまくしるふて
わまととまくまくざんじん

みまくそん
みまくそん

入だーすか
づふせんまくまくのやか
さととまくまくあまく

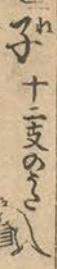
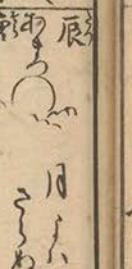
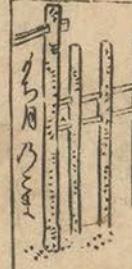
みまくそん
みまくそん

入だーすか
づふせんまくまくのやか
さととまくまくあまく

みまくそん
みまくそん

入だーすか
づふせんまくまくのやか
さととまくまくあまく

みまくそん
みまくそん



男去女水をふらまひ
うどもんかすやどちが
とすゆかまうせほひ

うちうかく本のとま
づぎふおなはれのた





男水女水おとめおとす夫婦ふうふの事こと
スハ三人さんじんの夫おとこと妻めのこの事こと
人ひとの夫おとこと妻めのこの事こと
夫おとこの夫おとこと妻めのこの事こと
夫おとこの夫おとこと妻めのこの事こと
夫おとこの夫おとこと妻めのこの事こと
夫おとこの夫おとこと妻めのこの事こと



男水女水おとめおとす夫婦ふうふの事こと
夫おとこの夫おとこと妻めのこの事こと
夫おとこの夫おとこと妻めのこの事こと
夫おとこの夫おとこと妻めのこの事こと
夫おとこの夫おとこと妻めのこの事こと
夫おとこの夫おとこと妻めのこの事こと



男金女水おとこおとす夫婦ふうふの事こと
夫おとこの夫おとこと妻めのこの事こと
夫おとこの夫おとこと妻めのこの事こと
夫おとこの夫おとこと妻めのこの事こと
夫おとこの夫おとこと妻めのこの事こと



成せい里りの太お内うち
月つきの林はやしの夜よもバ
夫おとこの夫おとこと妻めのこの事こと
夫おとこの夫おとこと妻めのこの事こと
夫おとこの夫おとこと妻めのこの事こと
夫おとこの夫おとこと妻めのこの事こと

西人一首の古事

京極中納言定家卿

小倉山莊の障子小草人

一首紙色紙形小うた金

うみとみと彼色紙今

代小のともに大に有

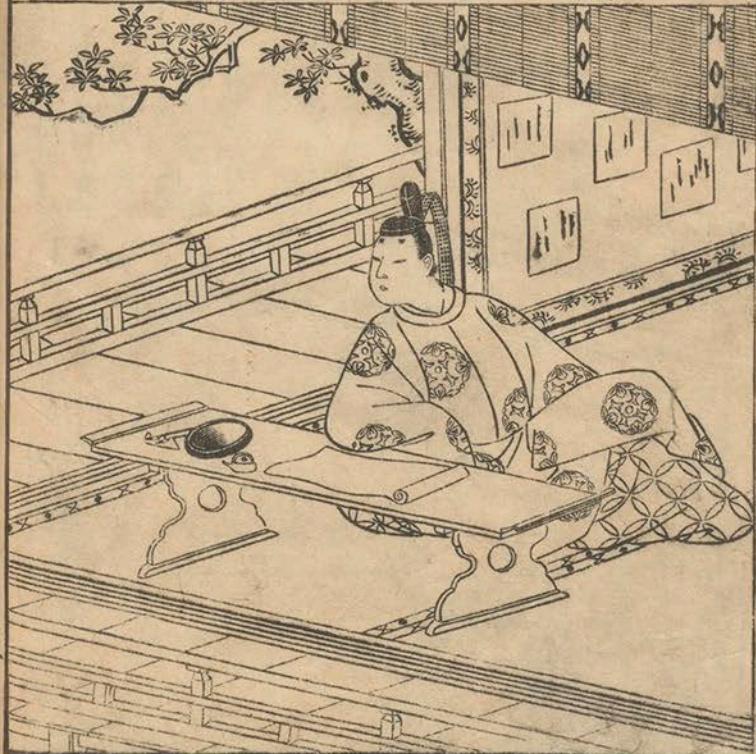
其障子の廣せばふをさ

ぐのれとよくかかる

べー時代をだくげふあ

み家公化者をとくき

ちづく
移ぐりも







婚禮の圖式

女はやれ家とぞまの承と
我亦とぞ重みとふ家へ女
乃今は娘とぞ重みとあるひと
其乃之母とぞ重みと御名よりく
ほぐくもものむとづくはく
それ娘相嫁とて承て承て承て承
ほぐくもものむとづくはく
さまで嫁お處の多をうぢす
となり嫁かね食歎よほ
びあをかてつるのうづなす
ゆりてお日辰と定め男せ方す
あ固とゆろ是と結納とあり
あとも行浪お難わり五番程
三番三種それよりひそゑと
て六番六種子者ゆる御事
八番八種子者六牛様公考
十番十種子者六牛様公考



そろひす一ちりすほおれ
なぐとしのがやうとのら
あるの興となりなりおちの
秋さめぐのはくわるみを
あれどもあ代てのひを争
とりつもとせりあに増れ
金銀のほのかれすれど
のまづきよづれむけく
幸式かわくとまげよゑの
喪つて侍女争ひむを
化樹のまゐあひめを
休息まごと下拵慶いざる
さんめいが主居と下居
ひしの客番と上居番
ひ居ありて産婦をまわす
掛の一とくれ次ゆきよし
ぢりひきげといすすあり先
おりありうりんとくじり先

そろひす一ちりすほおれ
なぐとしのがやうとのら
あるの興となりなりおちの
秋さめぐのはくわるみを
あれどもあ代てのひを争
とりつもとせりあに増れ
金銀のほのかれすれど
のまづきよづれむけく
幸式かわくとまげよゑの
喪つて侍女争ひむを
化樹のまゐあひめを
休息まごと下拵慶いざる
さんめいが主居と下居
ひしの客番と上居番
ひ居ありて産婦をまわす
掛の一とくれ次ゆきよし
ぢりひきげといすすあり先
おりありうりんとくじり先



舞拂ひのうかうして難夷

とひだりとめまう女帝とも

そのうから引くま縫ひる

其のりむことよりひいてなむ

い小をとあるあるちう星を

魚あゆとりうそのらもう

さあうとあけびうゑ一家

うちうきふわくまみ日めえ

八日うなりとも黒ひときと

もひてねをうそめ黒毛

うううじてむのううがる

といおうひとつりとある

おあうとの一衣ひうあそ

あんまへそりうりとよびて

りくかすかとありあどえ

うきくへなもとるんじう

絆やう店

ス園のまくまきあらの

よりおまのとものかとある

あり想えれこまくまの

こくらうあり

わるれまくはれのまづな

あ、あり女ふまはらきゆんと

のまふま代へこれと通りと

りやを世へせんて女よりま

さすのまへなうぬ時のよう

ちなふちとふが

且まつたのまくはれ小娘をり

ゆくのひまがたとめくわ

三三をうべくわとほく

あくらうありうつら

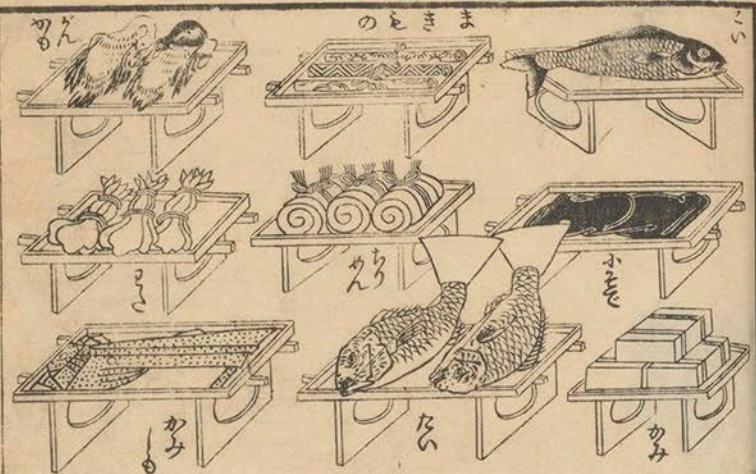
かくくはくはくはくとみうり

ふくそものとめのとめう

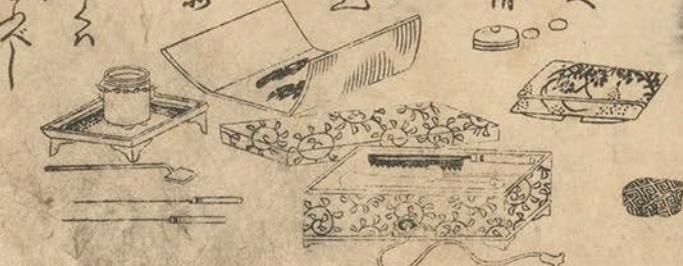
女のミマカヒキあひて煙姻

ふ用ゆるあふべ





一
魚とりてめをぶふ
とくとみつるあひ
そもねはうどつともそり
あり今ふたりてやうす
よやうに十種を謂す
十種へ



香道がおとせ事

在室のど

三種
一ノ松
二ノ松
三ノ松
四ノ松
五ノ松

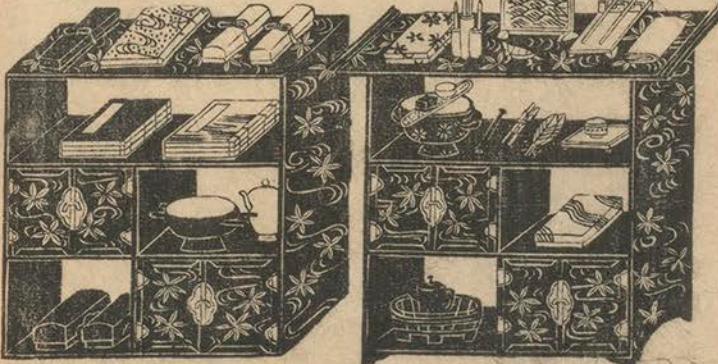
黒棚構の法

一ノ松
二ノ松
三ノ松
四ノ松
五ノ松

二ノ松
三ノ松
四ノ松
五ノ松

三ノ松
四ノ松
五ノ松

御殿瀬の法
一ノ松
二ノ松
三ノ松
四ノ松
五ノ松



引舟

ある男やんの衣装をうりまきと
今れ女のそえびてなくひあらべ

あざてしまぬとこみをそは
維多广勝をもつてほにきよる

女ゆゑおみたる

よめきてふぢせむかりるる
つあふれんばうのじるする

といひかきりんべ男面間なまく

うら住みとあや

○後金泉院の清財月れあうるる
東南殿ふよしをゆひ中宮御芳
あるり盤とふ女房どろまあの
花わてあれと化ゆるとあらまく
折てまひせなまくもへるとの
作られ算六とうのて
あら葉の月ねまうのありせ
みうちの花をつでおき

君感じよせものい物をとがけ
さをゆひりとぞ

○徳大寺殿つまご大納言あらゆ

うね比んとほくそれる女房の
りくふねうて抽くうあどせななる
うくわーくのうまきとあらく
立生て身のものをやしを食て
ほらまくるせびとて肉のくらみの
けのあーあをほ身の若まぐりと
太肉の半あらとやくればさまと
みあひの肉の身のゆくうすれう
をみのでやんと一ゆひりけん
をそば女がうやぞんねおや
鶴のあうたねば

うしや夜雲のゆうひゆゑどゆき
くもうちなる人やうめう
くいとゆすあきれたをゆだれ



大納言おほのまんと小女こめのわらわを仰あおうのとる者もの也

せばせばま東ひがしをもせりひたり
○室むろを居ゐるを美うつくし儀ぎ誠まことなふ故集くわいしゆ

の權ごん者しゃと定家じょうけいの父ちちそはー
まえさるも布衣ふいするもので、

而ひるゆゆとがだれと喜育きいくめり
まつりと妻めのころとまつり

タクたくおに

妻め日ひ母め

母めののなま

ひりれひりれか

さすふさすふ神かみ

あやー

わくせ

かくさんかくさんよみのひきまでのとみる
ののドド也やあひひきひきややまほまほ
ややまほまほののる

○小式おひしき内うち侍しハ和わ承うけ或も於お女め
あり妻め女め時ときようよく有あどよ
足あしてて時ときの人ひとまよまよみく
ひひくくめめと風かぜ吹ふきりりののる時とき
母めのの式しき丹たん後ごくくりり方かた
樹じゅ事ことりり出で産うぶのの令めいをを小こ或も
ををももおおみみみみくくられられる時とき
中なか納なたたれれてて小こ或も於お丹たん後ご
ゆゆははぬぬじじややくくひひてて居ゐあ
ととみみれれとと内うち侍し翠みどり葉はすすす
如おてて幽ゆう衣きのの桂桂ををゆゆる



肉侍をもまれてねのりのうをせ
よろてあとがたとなりへばと
まとめりまくはん

とくらやねて

あやせだ

つづ

あやせだ 姫小あ

あく

ゆぐと

ゆりへだ

ゆく
ゆく
ゆく
ゆく
みくらと生トウリのどくさをゑ
タリ焉もほやも大きふかし
ゆづりそぞき三一

○平右大將家堅公幸江國
池田の長者湯谷ヶ女侍程と
白拍子を序毛ありて仕

ひきりぬをぬれのうすと
おひきりぬありとくふとく
りひきしてなあひくにじくとく
さくふひくぬありとくわるとく
東山よこそられぬとくふまつり
あらんをりゆくやくわく村
のとくわあせ様とちくーりとく
侍候小南産ハづかとむらとく
立くちこする様と二きとく
そく前よりとまつり

いふさんねの妻ル

ゆづりどなまし

わらまた

花やちくん

宗盛公のあふみとゆく
いとぬかりゆづまよゆく





牽牛織女之圖



まうりのえり
井れぬすを
ツマリの
あせ乃民至
まもも人の
まひもあ
めぐらのくも
うれういの後
ちひ病ようの代
の病もよも
よもきうあ
あくあく
みそ



七夕のわ乃
つまん

こころして

吹きそよぐ秋の

風

秋そぞれ
かがれ

恋の涙や
るいのたears

うつむけぞ

ほゝむすび

きみよ

まくら

あ

ま

白ぬ乃

あらぬ

衣

き

持続天皇

えん

え

う

う

柿本人麿



あひきの川
あはれかな
ひきせふ一桜と
あそびと七夕の
あひきん秋乃
うなづいたあ
その河をみま
きみもとも
ゆづせらうとも
わくとそぞう
七夕のあひね
そへんや
まねをあひす
うきぎの格

秋そぞれ
かがれ
恋の涙や
るいのたears
うつむけぞ
ほゝむすび
天の川
あらぬやけ
もと秋され
七夕れ我ら
あらぬ
一ひとひ
ちまうりうそりん

いくとせむ
りかうても

セタ乃様うへ
どんの
まみも

あゆゆけば
河瀬のきみれ

まく袖のくす
てのくも

まく袖のくす
てのくも

まく袖のくす
てのくも

秋けひりや
ひそび初見
セタれもまぶ
天の川水す
ま乃おもがく

山と遊赤人
田子れうす
うち出く
まれば
白めの
ゆる
あらはかりに



様九太夫

奥山

み
ゆみち

れりとせた乃
くらねまの
くとぞ
くれゆれば
えでえの川
水すまおの
家の玉やく
あまのゆなま
らまう一
ゆるぎうちれ
いとくと
つくあまゆ
うまくやたの
さうふもも
ひくと
金



秋のうね
音

さく康の
ゑきくとぞ

ひくと
金

和歌三十六歌仙

歌仙

石柿平人丸

かのへと
かわ

おもふ



鶴乃月

月の
あらきアハルハレハ
カタナヒテアリ



久河内府脇
まのゆくべ

安陪仲磨

あまのゑ

すりまな

まれは

わくは

なま

みづみよし

出一月



さくらんぼ法師



わの鳥へ
まゆゑこの
あそ
モモ
人よりあり



我身
かうじみ
先ぢ
すみ
小野小町
さくらん
ぼ



素性は仰

かくせは仰

蟬丸

あまやこの
りも
くも
わらわ
あすも／＼ねも
あまう乃冥



ををの
猿丸大丈



參議堂

か圓のくも
い十弓



山中
あまよと
あまよと

人左つま
あまよと



陽成院
ほくちゆの
ある
あそぶ
川
かわ
あそぶ
そつりて
洞と咸や



僧正遍照
そうとうせう
風の
かきむらじ
吹き上
しゆめもと
あとめらす
まくらめらす



行すて山法



河原た大矣

みちのく
あゆ
詮ゆ
名く
りも
まれか
モリ
あくに



光孝天宣

秀る。やあ
其の世よ

いとく

まかつも

我らもて

あらふりほ



秀る

サレ

其の世

ホ

まか

ト

我

ラ

あら

フ

ふりほ

ヒ



源家平船片

常登りれ

ねのみくらる

まくわい



中納言行平

立つての神

いなかの方

山乃

みゆきやる

まくわいきうべ
今うづりさん



車前葦車鈴

神代も
さうと。

まくわい
川

まくわい
あくわい



坂本敏行朝臣



巻之四

作をも
人ふ

高の
だん

松もむけ

友か

か



ふぢのうや
やなわさん

住れえ乃

きよ小

よもうき

くゑ

爰乃かひち

ひと
人めトノ居ん

萩原清山

すず風

すず乃

すず

波
み
か
波

住
せ



元良親王



よひゆどん
くわくわく
むかく
なまはま
と
ほ
わいんととらふ



素性法師

今
じ
じ
そ
き
月
の
す
り
小



三歳院安姫

大江千室

すとせまそ

かまきる

ねも

あくまく

ひうねく

おふ

あくまく

ひうねく

おふ

あくまく

ひうねく

おふ

吹くふ秋の
くさきみ

文倉素秀

がんやまとひで

もへとくさみ
わくらん



平兼盛

秋の
かき
ねも

おは

ねも

物を
月見る
大江千室

あ
か
わ
月見る
大江千室







源家半船行

よしとくは
さむいふを
ぬうり
あら
人やモ草モ
シ神ねとねりハ



よしとくは
さむいふを
ぬうり
あら
人やモ草モ
シ神ねとねりハ

かわあくふ
おれや
ねもし
初おの
あらまどりきる
あらまくられむ

河内行恒

小野小町



中納言翁忠

士生忠岑

有のれはき
みく
タクシ
ミル
あつき
うき
おひれ



葛葉高光

春道列樹

山河の風の

あれも
あれ
よみぢ
なむり





藤原風

清原涼善文

夏の秋も

まも

育きよ

まく

明めるを

そものいつて

月や

まづ



又庵胡蘿

ふきぐ
秋の野へ

風乃

あひ露小

秋の野へ
ほねきともれ
玉そちらむ



清原え柿

秋の



平義盛

やうき
やうも
やうと
やうすれと
いろふ
ゆうり
ゆうじいへ
ゆやむよと
人乃よすゑ



うゑのりふ
まよ
まよえ

士生忠見

立
志をよ
もき
ひこ
ひこ
ひこ



おひしやーぐ

中勢



萩の
うれき
つまとも
秋風のふくふ

源氏物語引哥香圖



手
て

一
一

二
二

三
三

四
四

五
五

六
六

七
七

八
八

九
九

十
十

十一
十一

十二
十二

十三
十三

十四
十四

十五
十五

十六
十六

十七
十七

十八
十八

十九
十九

二十
二十

二十一
二十一

二十二
二十二

二十三
二十三

二十四
二十四

二十五
二十五

二十六
二十六

二十七
二十七

二十八
二十八

二十九
二十九

三十
三十

三十一
三十一

三十二
三十二

三十三
三十三

三十四
三十四

三十五
三十五

三十六
三十六

三十七
三十七

三十八
三十八

三十九
三十九

四十
四十

四十一
四十一

四十二
四十二

四十三
四十三

四十四
四十四

四十五
四十五

四十六
四十六

四十七
四十七

四十八
四十八

四十九
四十九

五十
五十

五十一
五十一

五十二
五十二

五十三
五十三

五十四
五十四

五十五
五十五

五十六
五十六

五十七
五十七

五十八
五十八

五十九
五十九

六十
六十

六十一
六十一

六十二
六十二

六十三
六十三

六十四
六十四

花之宴



紅葉賀

謙徳公

わくよへ
人を
かくよへ
うみさむよへ
身のひくよへ
たりぬだにきく



中納言朝忠

か
ざ
る

わ幸乃
さく乃
かくよへ
人を
かくよへ
うみさむよへ
身のひくよへ
たりぬだにきく





林の夜乃

月けの

雲井

と

れの

まえ

そ

る

風を

いづみ

や

あみ

の

物

な

め

の

よ

う

れ

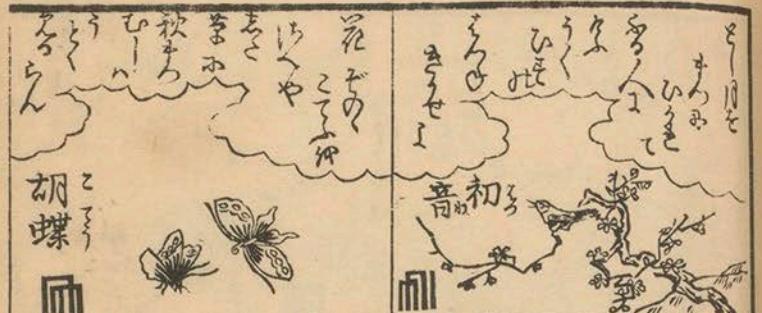
源

ま

え

之





物とくらし
いふるむよ
あくた
めのよ
ひり
歌き
おとね道徳母



山あそば
くわ
あくた
めのよ
ひり
歌き
おとね道徳母

岩本道徳行歌

儀同三司母

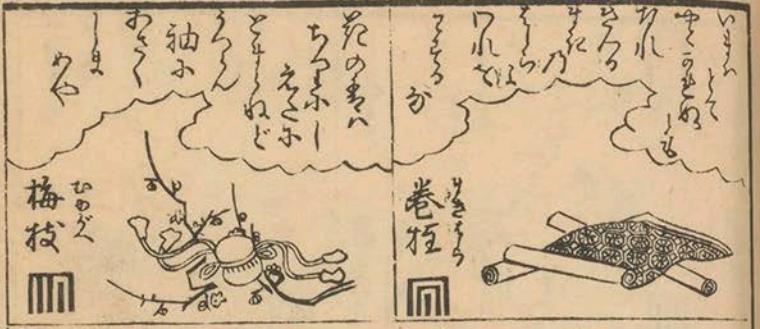


大仰言公は
御乃事は
まく
久しく
ありやど
名をわざれ
れきえ



野から





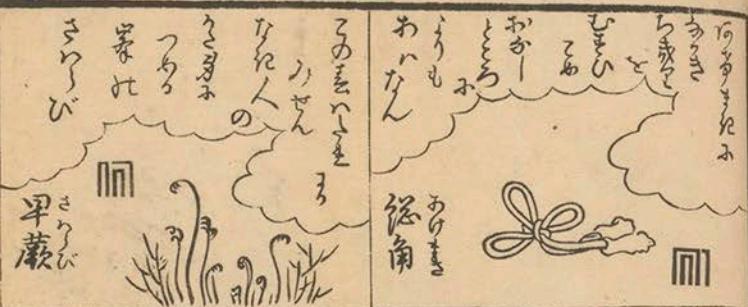


大式三絃





浮世物語



金とく本と

ゆすい
出まへ

鶴鈴

雨

浮舟

うきそむけ

ひじく

毛糸

たまゆる

春のあら

用防内侍



一ノノノノノノノノノノ

参大僧正行る

さだの だいそうそうじゆう

まわともり

あわせと

あす

と

ま

かく

かく



一ノノノノノノノノノノ

女手習状繪解
教訓乃書



三條院



「此も續きる
うふみばらとたれ

まかの詞みも
かきむかひ伝と

車か見を因下か
人ふえ悔そむけ
に賤くと重ね
度敷れ付の要く
て恥りく人ぞ

良運は仰
けひしもふ
岩城
すち
出く
眼まつらとも
秋乃夕ぐも



大内吉任信

門田の
いふぞよぎきて

ゆすばせり

秋風そよぐ



ねとひ日のくぬを
せらふいよどり

少と因盲て醫
昨もかえすらる

とひ日えありて
えまれえふしと
りや葉もあぐと
神やわく行あ
たへはととめ目
や一生わくと
さん色ぐも薄情
しき往りく金ぐく

櫻痴筆家作

あふきく
さりーの

てよへ
かくや
神れわし
もそもと



前中納言道房
ちゆれ
おのづ
りく
まこと
あまゆみ
すくはもあくん



そぞらての物語

源俊朝に

まふふるはまむな
わく年も園わし
ば彼とあきとす
多く筆を奉へ
誂き初からう
何とも只す捨と
やべ女子うらみ
りまでも親の汗
ゆくよろひ仕合
余湯へ行つた
時他の人の

うかりある
人を



中川住居と親

数中の人をひき

うゆは侮る氣

づみ方のゆゑも

持まざるに取めり

審れ用ひゆん

とむらや里を

ふくもんよきあ

用ひまくよと

ひふゆりふく

假管ハリ

久々の

久々の

久々の

久々の

久々の

久々の

久々の

久々の

久々の

はせき入道茶園を致す

まの



おのれのやうなれ

つたとを里とてゑ

讀あうとふ思ふく

届えひで親の氣づよ

事あるみ第う

かく人へ海ふ國と

後こうきに不仕合

とも書きそひゆう

神んごうを筆と

ゆとさうもんじる

すきひれ唐

一あわくくわへ

源通昌

はまち

いよ

ちどりの

かくしゑみ

いく

神ふね

いそまの實り

かくしゑみ

いそまの實り

新乃よやあく



左京至引滿

松風小

まみびく

まみ

まみ

まみ

まみ

まみ



源通昌

はまち

いよ

ちどりの

かくしゑみ

神ふね

いそまの實り

かくしゑみ

宝なりと外の室へ

それとて先と

も有りどりが身

のうちれども

火みえ焼すう

なはずつと一代乃

うとすかに歌も

むれちにせひ

とたれぬを

用ひせねど也

人ふ一そえく

を付

ええええ
待賢門院橋川

あぐらを

ゆゑあくば

うわうの

みぞれくの

あまくは

ゆふそめり

後徳本章な大に

あき
ひづ
かくおん

うと

かづ
ひし

きくあるの内

力とのご神ふ



かあへ樂とぞ

道因法師

（え）（ち）

とれどもあらわ
うく事ぞみ縁に
ま仕うち下ごも物

とがーもさき努力せ

賤一や狂歌ねりを

うーん社へまかー

よのう方は女子ね

子掉ばゆきらうと

竹一を田舎宿と

ひーふの女子

おととりの金



おひいき
命へ
ある
まは
うよふよすくねへ
かみてこなりてたり

皇太后宮奉事後成

せゆ

もひと

おひつけ

ひのむくゆ

康そなぐき



須磨のうしーか

ア神衣をそむけ

あこ乃梢も葉ちう

あそなると源氏も

ア一弓曳(ひき)

もかくすと云うふ

爰(い)へんと西目な

クルーと波(は)

讀書(よみ)とよろこ

假名(かな)もるわ

世(よ)と能事(のぶ)

とも樂(うき)も人の

あち
アのさよ
モケアス

友原清浦別

たゞぐへ
ひそらや
れん

うしゆみーせ

今(いま)い



後醍醐天皇



若(わ)すく
物(もの)ねよ
まろひ

ゆ

けまかくまく
國(くに)のり



すくね
まろひ



かくねとと初を同
鶴と梅並もしくわ
ぞ世うのとてあり
とれの人のよもれ
りひよとわゆのよめ
うす人一生のまくは
んやどもせをもむ
身へかくほのりは
かはがくとてうむ
賢きよとよと女子
ハ天よりも法氣の孕し
なりあは下うり葉



西行法師



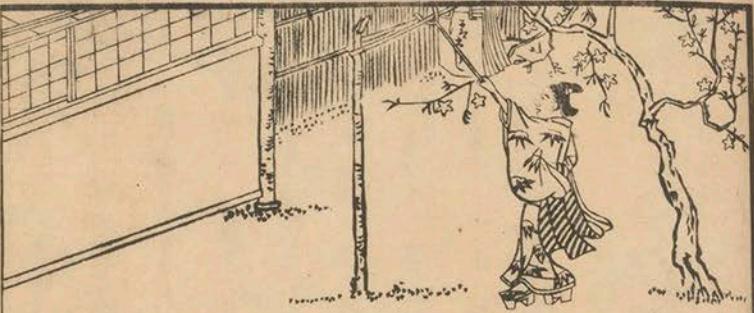
玉の内親
式子内親



和の室をわく人の
やめ水むべーせは
室をよし居て持ぐ
と氣ぞううう
こやあらゆりも
とへふらぐ味もや
ひめうきとす
きに健ふけりつき
うれ人のまと我と
氣強ばゆゑり
表へ出る人まこと
被ひりでまきへ

一雨り
身とけんる
ゑまくべき
身とけんる
わ
ゆ
の
身とけんる
えんのう





ひとみやびととあわせ
うーせと外國ふ大
きい家は主がり
のオーランのーき
あそび家内せや
なしすとて曰くによ
うの事なまく
家事もひめり
まくおやもとくも
みかそもくふでー
く家内せや
とれの不れ日ひ度



かにそひて次第

富貴もろきのみぞ

乃とはあらまどこれ

よみいの益がしを

筆とよみよせむ

すがからく身と

脩つゝ老ふを益無

ふくされ盡生を

つゆうてくまひ

なるが奉行ぞ斯ゆも

りゆく人やば天乃

謙倉右大臣

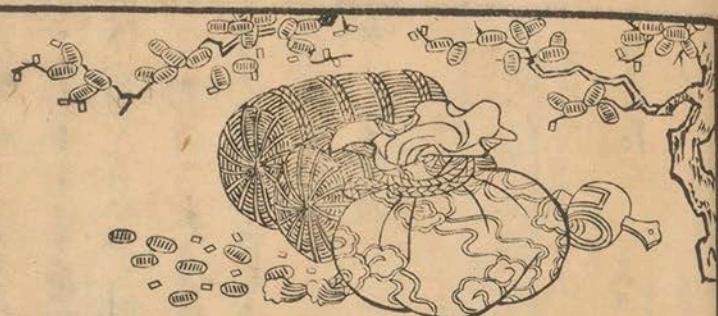
か
せの中も

りわ
ほも

さ

諸
よぐ

量れよゆの
つゆくうだいも



二條院後

我神も

刀とね

身ひ

仲乃

石志

人アモトヨハ

カミクモモカ



神や佛乃より
かく子代萬世の

まかぐくみうち孫

うち限り祝ひ

てそんじう一月もお

りくまゆふべ

女もち状候

十二月和歌

島山
道佐亭

正月 人のあい

花咲
さわ

ちね花

さわ
花咲

えんぎ
參議雅經
みのわ
風
ひよ文
かふまともく
衣うらあり



前大僧正無因

れはゆゑく
うらゆゑ

民小

抄文



三月

さゆね持ち
桜小舟の

四月

うみ
なびく
そよぐ
あふ
そよぐ
まく
をのぞて
まき

ゆうめい
ゆうめい
ゆうめい

菖蒲桂竹
あし

入道赤松家

やうどくさんじやく

もくよ
角ふ

かの

ぬりゆく
ぬりゆく
ぬりゆく
ぬりゆく
ぬりゆく



樟津伯雲定家

あわんと

まつやの

夕ゆにふ

車くやりに乃

身もこぎけ

左京太夫
音歌

五月

油盆通書

う竹のうち
うぶき
うるさき

ゆめこゑの葉

六月

ひもべしも

まほせれ

まほせれ

おのまくら

ありげくら

ありげくら

のまくら

あくまくら

あくまくら

花の花

あくまくら

あくまくら

七月

微雲記

相の本多
うきよす
あ

八月

桂の夜

月

も



風

小川

夕

夏

みそまう 夏の
あすなりなり

四十九

正三位家隆



九月

方三位

成実

宿小
月

も



十月

桂の夜

畠岩左助



世を
人もわふ
後鳥羽院

と
その
ゆ

物やふ

ひ

十一月

吉の世りふ
秋すすり

時也

沙汰賢良

十二月

暮るも
暮るに
雪の
雪の
花の
花の
をさき
あく



順徳院

百敷や
かまき
むかわまりて
むかへりありゆ



神功皇后
ひひき一仲承の太君のひ
めふて仲良天皇はゆき
紀人初くキハセテ御ち
世ふきくしゆぢゑうろとさ
くくくみちとけいきを
う小娘夷鷦夷也と仰
あらそまは五皇まよ

かくすをすとすとす
んと軍小主とくまを
かくすをすとすとす
うとすとすとすとす
あまで小主番とくまじ
えとすとすとすとす
えとすとすとすとす

三都賣弘書林

東都	植	村	藤右衛門
攝都	勝	村	次右衛門
西	英	源原屋	茂兵
		新	三郎
		田	平吉
		山	六郎
		田	郎
		屋	嘉右衛門

浪華 松本泰泉堂藏版

享和元年酉三月出版
文化九年壬申五月求梓補刊

万寿百首常鑑	源氏八十に临のちれんと湾 小あらへ一番の歌とほよかへ 女中たゞ身と風のたゞりとく
万寿百首游箱	源氏八十に临のちれんと湾 小あらへ一番の歌とほよかへ 女中たゞ身と風のたゞりとく
群玉百首筆鑑	女中一代の筆室古事記を 筆がた著く用筆室を以出
女萬葉船文庫	女中一代の筆室古事記を 筆がた著く用筆室を以出
女遊百首室藏	貞女娘女のねぐらと強當に 折枝諸孔名洞法のと集
金玉百首文庫	南裏注本小品とすて れりうきと色をかきふる
女文童笔室鑑	女中とそりとつ車を引け 次と強ひよりろく
女今川状賸集	女中とそりとつ車を引け 次と強ひよりろく

跡見学園女子大学短期大学部図書館



a 0010458396 a

山
五
五

5
5





